

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	武内 陽子 (****年**月**日)
本 籍	*****
学位(専攻分野)	博士(医療福祉学)
学位授与番号	甲第190号
学位授与日付	令和6年9月20日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	地域における精神障害者の社会関係の形成に関するエスノグラフィー
審査委員	教授 長崎 和則 教授 飯田 淳子 准教授 植田 嘉好子

### 博士論文内容の要旨

精神障害者は、強制的な入院や偏見・差別により地域社会から切り離され社会関係を喪失しやすい。本論文では、日常的な相互行為の積み重ねによって精神障害者の社会関係が形成(再形成)される過程がエスノグラフィーによって明らかにされている。A法人は地域住民との間で障害や病気を隠さず社会関係を蓄積していた。3つの事例を通して、社会関係の形成(再形成)には周囲の人との「意図的に作られた環境における偶発性」がきっかけとなり、些細に見える何気ない日常的なかかわりを通じた相互作用により徐々にそれぞれの関係を形成していた。この結果、周囲の人との社会関係を形成することに加え、自身とは異なる他者への見方が互いに更新され、新たな他者像(精神障害者像)が作られていることにも言及している。結論として、精神障害者を対象とした研究の可能性と、精神障害者と周囲の人は互いが理解し合える関係を形成できることを明らかにしている。また、精神障害者が地域社会での生活を実現させるためには、社会関係の形成を踏まえた教育と施策が必要であることを示している。

### 博士論文審査結果の要旨

本論文は、精神障害者が社会関係を形成(再形成)するために、「意図的に作られた偶発性」をきっかけとした周囲の人との日常的な相互行為の積み重ねが必要であることについて、エスノグラフィーによって明らかにしているところに新規性がある。また、精神障害者と地域住民のかかわりの参与観察とインタビューによる厚みのある記述により、理解されることが困難な精神障害者の考えや思い・行動が、日々の生活を通じた相互行為の蓄積により周囲の人に理解されるようになることを示したことは評価できる。様々な事例が提示されているが、一貫して精神障害者と周囲の人のかかわりの積み重ねと相互行為による相互理解と他者像の変化の可能性を提示していることは博士論文としてふさわしいものであると判断できる。